

## これからの僕たちへ

気仙沼市立鹿折中学校 3年 新野楓成

「友達」。それは皆さんにとってどのような存在ですか。そして、「友達」の中での「自分」はどんな在り方をしていますか。

僕の学年は33人、1学級です。人数が少ないため、クラス替えがありません。小学校からずっと、同じメンバーで学校生活を送ってきました。長い間一緒ですから、お互いの性格の良いところも、悪いところもよく知っています。そのため、いつの間にか、気の合う友達同士で集まるようになり、グループができました。

僕にも仲の良いグループがあります。僕はそのグループの友達のことが大好きです。常に一緒にいて、何でもない話をする時間が好きです。口に出すことは少ないものの、お互いを信頼し合っていると感じます。だからこそ、この機会に「友達」について改めて考えてみたいのです。

もし、仲の良い友達と意見が分かれた時、皆さんはどうしますか。自分の意見を貫きますか。友達の意見に合わせますか。

僕は話合いの時や何かを決める時、無意識に周りの友達の様子をうかがってしまいます。「こっちがいいような気もするけど、とりあえず多い方の意見にしておこうかな。」「みんなと違くと、変だって思われるかも…。」友達に「どう思われるか」がとても気になります。

その場の空気を読んで行動する。周りに合わせる。これは「友達の意向を尊重している」とも言えますが、「同調している」とか、「流されている」とも言えるでしょう。九年間も一緒にいる友達なのに、なぜ僕はこんなにも周りが気になるのでしょうか。それは信頼されていると思っている友達からささいなことをきっかけに嫌われたくないからだと思います。「嫌われたらどうしよう」「友達がいなくなったら…」考えるだけで怖いのです。

しかし、みんなに合わせているだけでは、これから先もよい友達関係を続けていけるとは思えません。僕自身、何かを変えていくことが必要です。

その一歩目として、僕は「少しずつ、ほんの少しずつ、自分の考えで行動していく」ことを大切にしていきたいと思います。行動までできなくとも、自分の考えをしっかりと声に出すことができれば、関係はよりよいものになっていくのではないのでしょうか。

また、周囲に声を上げようとしている人がいたら、その人が意見を主張できる環境をつくることも大切です。自分とは異なる意見はすぐに批判する。排除する。周りとは違う人を寄ってたかって叩く。「炎上」という言葉をよく耳にするように、SNSを通して、そうした風潮が起こりやすい現代だからこそ、安易に同調したり、批判したりせず、自分自身の頭と心で正しく判断することが必要だと思います。

みなさんの中にも、仲間と自分の関係を「同調」という見えない鎖でつないでいる人がいるのではないのでしょうか。また、ネット社会の風潮に何か違和感を覚える人もいるでしょう。「自分には関係ない」と考えることを放棄したり、現状を諦めたりせず、まずは自分自身の思いを大切に行動することから始めてみませんか。

「友達」。それは僕にとって、失うのが怖いほど大切な存在です。これから先も僕たちがずっと仲間とられるように。そして、もっとよい仲間になれるように。この主張は、僕たちのよりよい未来のための最初の一歩です。